

北海之光

11月号 北海道教区報

主はわたしたちに道を示される
わたしたちはその道を歩もう

イザヤ書2章3節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

神の涙

苦小牧聖ルカ教会牧師
室蘭聖マタイ教会管理牧師
新札幌聖ニコラス教会協働司祭
司祭 グレゴリー 松井新世

昨夜は大風だったので落葉を掃く。掃いた途端に途切れずに落ちる葉に文句も言いたくなる。でもそんなことを言われたら落ち葉も身の置きどころがないだろう。春になると美しいピンクの花々で道行く人はもちろん、幼稚園の子どもたちなどはごさを敷いて花見をするほどの景色だ。何より窓一つ隔てた一等席で楽しむ筋合いはないと言われそう

だが、荒んだ枯野に一人立つ時、もうこれ以上自分を苛酷に攻めることはないという声が聞こえてきたりもする。何度言葉で傷つけられたとしても、言葉で癒されてきたことが多いのも事実なのだ。今年出会った絵本『さくらのさくひ』は、エミリー・ディキンソンの詩と並ぶ程、私に必要なものとなった。毎年綺麗な花を咲かせ、動物たちを楽しませていた桜の木があった。地下には、もぐらが穴を掘り暮らしていた。もぐらは、友達が沢山いる桜の木がうらやましかつた。

その後、もぐらは桜と友だちになった。桜の花が咲かない年があった。花を咲かせない桜に、動物たちは、がっかりして帰って行った。もぐらは、桜が心配になりその根っこを調べると、そこはカサカ

サになつていた。もぐらはそこで気づいた。自分がその木の根の回りの土を取り崩していたからだ。自分のしてしまつたことを償うために、もぐらはその平たい手で懸命に水を運ぶ。でもその不器用さ故、桜の木まで運ぶころには、一適ほどしか残らない。それでも、何度も何度も、水を運んだ。間もなくもぐらは力尽き涙一滴を残し倒れる。もぐらは知らなかつた。ちょうどその時、その上で桜の花が芽吹き始めたことを知らなかつた、という切ない話。

「愛する者よ 死を前に人が必要とするのはごくわずかグラスにただ一杯の水 壁の所存をきわだたせる一本のつつましい花の姿」

(エミリー・ディキンソン 詩集『自然と愛と孤独と』)

エミリー・ディキンソンにも共通する「小さな捧げもの」は、しかし痛みを伴うものでもある。ここ数年、それが痛感される。様々な次元での共同体の痛みや涙は無論、グローバルな視点をも入れた流す必要のない涙に胸が潰される。特にまだ世界を知らない

幼い命が奪われていることはどういふことなのか。先の荒い箒で落葉を掃いていると、日陰に両手を天に上げている小さな姿があった。ひっそりと祈るような姿に邪魔にならないようにと、そつと箒を置く。

枯れ落ち、捨てられ、焼かれて灰と化するようなこの落葉が幼子イエスを包む襁褓となり得るのかとしばしば考え込む。そして、もし、私が流したこの涙が、幼子イエスを迎えるに当たり、あるいは今涙する者のために、僅かでも資するものがあれば、その涙は神が共に流しているものだと考えられないか。

「神自ら人と共にいて、その神となり、目から涙をことごとく拭い去ってくださる。もはや死もなく、悲しみも嘆きも痛みもない。最初のものが過ぎ去つたからである。」

(ヨハネの黙示録二二・三・四)

すっかり葉が抜け落ちた冬枯れともいふべき高い木の梢にただ一羽立ち尽くす鳥は、何か来るのを確信しているのか、そこを飛び立とうはず、遠くに目をやっていた。



—心の窓をひらく—

福音と私(二七五)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

札幌聖ミカエル教会信徒

セシリア 秋江 恵美

【私の好きな聖句】

「見よ兄弟が 共に座って
いる。何という恵み、何とい
う喜び。」 (詩編二三・二)

三月に九〇歳になりました。
長く生きてきたなと思います。
私は牧師の娘です。一歳
二ヶ月のとき、父の赴任によ
り深川に参りました。

その頃、深川の教会の周り
は畑と野原ばかり、のどかな
景色の中に教会はありまし
た。

野原に座り、遠く弧を描い



す。

小学校高学年は戦争一色
聖戦、大東亜共栄圏など、声
高に叫ぶ国を信じ、お国の為
にと子どもたちも真剣でし
た。

その頃のアジアは殆ど西欧
の植民地でしたから、アジア
の解放という言葉が素直に信
じたのです。

一方、キリスト教は敵性宗
教と見なされ、我が家には憲
兵が見回りに来るようにな
り、近くの町の、他宗派の牧
師が投獄されました。信徒も、
他の目を恐れ教会を避けるよ
うになりました。

父は生計の為、女学校に職
を得て、教師になりました。

以後、定年まで教師を続ける
ことになりました。

教会は牧師館も含めて、軍
に徴収され、私の一家は引つ
越しをしました。

私が女学校に入った年、戦
争は終わりました。その年も
次の年も、大変な混乱の中
明け暮れ、皆、生きていくの
に必死でした。

けれど、やっと心の自由を
得ることができたように、思
います。

頃、私の心の中に大きな疑い
が芽生え始めました。神様つ
て本当にいらつしやるの？
戦争中、神社に参拝を強制
された時も、子どもながらに
折り合いをつけていました。
神社は神社、私の神様はイエ
スさま、と。

けれど神の存在を疑い始め
ると、次から次へと疑いは深
まります。

そんな時、理科の教科書が
渡されました。教科とって
も分冊された薄っぺらい粗末
なものでしたが、天体につい
ての記述があり、女学校に入
学してから教科書など殆ど無
く、珍しかったので、夢中
で読みました。

天王星、海王星、冥王星の
部分、知識として知っていた
ことの意味を考えました。

その頃、校内の科学部に入
り、原子、分子のことを学び
ました。広大な宇宙の果て、
目に見えない原子の微細な部
分まで整然と動いている。こ
んな世界が偶然に出来るわけ
がない、とこの世界の創造者
の存在を信じられるようにな
りました。

年老いてからよく考えまし
た。もし、私がクリスチャン

家庭に生まれなかったら、キ
リスト教とは無縁で過ごした
に違いない、と。なにか不
思議な思いだったのです。数
年前、ヨハネによる福音書を開
いていたら、『あなたがたが
わたしを選んだのではない。
わたしがあなたがたを選ん
だ』(二五章一六節)という
聖句を目にしました。

何回も目にし、何回も朗読
されるのを耳にしながら、気
にとめずにいた言葉が、私の
心に留まったのです。

驚きに近い気持ちに打たれ
ました。クリスチャン家庭に
生まれた意味に考えが及びま
した。

私の九〇年を辿って見る
と、クリスチャンである夫と
結婚し、三人の子を育て孫や
曾孫にも恵まれ、幸せな生涯
だったと思います。

今、神のみもとへ呼ばれる
日を待っております。

残念なのは子や孫がキリス
トの枝に加わっていないこと
です。

けれど、彼等もいつか神様
の呼ぶ声に気付くのではない
のでしょうか？

そんな願いを持ち続け、
祈っていたと思います。

常置委員会報告

第二一回 一〇月三十一日

《協議事項》

- 一、教区会において常置委員
会が提出者となる諸議案につ
いて協議した。
- 二、教区会初日夜のプログラ



主教室から

一〇月のGFS全国研修
会で佐藤百合子さん(東京
教区)から、大先輩のヨハ
ネ佐藤信康司祭の旅行記
「道東旅行の跡」をいただ
きました。このような一文
で始まっています。

「念願の道東地方を藤井
司祭様のご好意で回るこ
とができました。」

二〇〇四年八月、旭川で
勤務されていた藤井八郎司
祭と藤井直さんが、佐藤司
祭ご夫妻を三泊四日の車
の旅に連れていってくださ
った記録です。旭川聖マル
コ教会から国道三九号を
一路北東に進み、北見聖ヤ
コブ教会の上平仁志司祭と
お会いし、網走聖ペテロ教
会司祭になったばかりの松
井新世司祭とお会いし、オ
ホーツクの海沿いを南下し

- ムについて協議した。
- 三、来年一月開催予定の東北
教区執行機関拡大合同会議に
吉野暁生司祭を派遣すること
とした。
- 四、笹森主教のリトリート予
定について了承した。
- 五、教区会の信施奉献先を、

今金インマヌエル教会修繕費
用の一部のためとした。
六、アハリ・アラブ病院支援
のため、海外宣教資金より管
区を通して百万円を送ること
とした。

てウトロへ。知床の
自然を満喫した後納
沙布岬まで足を延ば
し、厚岸聖オーガス
チン教会訪問。釧路聖パウ
ロ教会の広谷和文司祭とお
会いし、池田を経て帯広聖
公会の寺本睦夫司祭にお会
いし、日勝峠を経由して夕
張、そこから新しくできた
高速道路を通って新札幌ま
での一三〇〇キロ以上の大
旅行です。広い広い北海道
の各地の教会を巡りなが
ら、雄大で美しい自然に目
を見張り、美味しい食事を
いただき、大感激したご様
子が伝わってくる、信仰の
友との大切な旅です。その
すべてをひたすら藤井先生
が運転してくださったので
す。

佐藤司祭はこの旅で、東
京教区と北海道教区との違
いを体感され、「その(教
会の)散在の仕方も尋常で
はありません。その牧会の

苦労たるや想像を絶したも
のと言わざるを得ません。
しかし、そうした現実にも
関わらず、北海道の聖職は
悲観することもなく悠々と
牧会に研修に励んでおられ
ます。」と残されています。
この五年後、佐藤司祭は逝
去されます。

今年一〇月二十七日、敬愛
して止まない司祭ダビデ藤
井八郎先生が逝去されまし
た。前日まで信徒の方に塗
油や病者の祈りをし、次の
主日の説教原稿も準備し、
常に神と人のために働か
れ、見事なまでに司祭職を
全うされた八二年のご生涯
でした。いつも誰かを同伴
して旅をしてください、今
も新しいいのちの旅を始め
られています。司祭ダビデ
藤井八郎先生のゆえに、神
を賛美します。佐藤先生、
藤井先生、どうぞ北海道教
区を見守ってください。
義マリアン・レス 笹森 田鶴

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

二月二三日(水)

午前二時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

- 司 祭 岡村 国夫 一九五四年二月一日
- 司 祭 N・D・スミス 一九八四年二月四日
- 司 祭 ウォルター・デニング 一九一三年二月五日
- 司 祭 W・D・エディ 一九八九年二月五日
- 司 祭 木村 光二 一九七九年二月九日
- 伝道師 北野 幸太郎 一九五七年二月一日
- 伝道師 津田 四郎平 一九一三年二月一日
- 伝道師 佐藤 富子 二〇一六年二月一日
- 司 祭 大井 浅吉 一九二五年二月二〇日
- 執 事 前川 修 一九四八年二月二三日
- 伝道師 永久保 秀二郎 一九二四年二月二四日
- 司 祭 荒木 蕃三 一九四八年二月二四日
- 伝道師 M・ローレンス 一九三〇年二月二八日
- 司 祭 大矢 敬香 一九四二年二月三〇日

歴文の窓2023(3) CMSと教区の曙の記録から

一八世紀末、奴隷貿易
で富を得ていた英国で国
會議員W・ウィルバーホー
スは奴隷貿易廃止のため
奮闘、同時に一七九九年
に有志とともにCMSを
発足させた。その理念は
主イエスに従い、社会の
隅々への福音伝道を目指
すというもので、その働
きはアジアにも向けら
れ香港から日本に及ん
だ。一八七四年五月一六
日、デニングが函館上
陸。そしてその頃、青年
J・バチエラーも祖母の
示唆で香港の神学校に進
んだ。しかし病を得て静
養のため横浜を経て函館
にあるCMSの宣教地に
送られた。九〇年史では
一八七七年五月五日と記
述があるが、根拠となる
資料が見つかからない。仁
多見訳「バチエラーの日
記」によれば香港を出た
のが同年五月三十一日、横
浜逗留後六月一六日に小
型帆船で函館に出帆八日
かかったとの記述がある。
歴史はこうした記録の保
存提供が役割で、検証す
るのは皆さんである。

歴史文書保管委員長
下田 尊久

東北教区・北海道教区合同教役者会

報告者 司祭 ペテロ 大 町 信 也

一〇月一八日～一九日の日程で東北教区と北海道教区との合同教役者会が、函館で開かれました。両教区の合同教役者会が開かれるのは、実に一七年ぶりのこととなります。この間に両教区の教役者の顔ぶれも大きく変わりました。何よりも昨年、笹森田鶴主教が北海道教区に、今年、長谷川清純主教が東北教区に与えられるという大きな変化がありました。両教区の教役者の交わりは、今春の北海道教区教役者会に長谷川主教様をお招きして東北教区の歴史と現在について学び、夏の東北教区教役者会には笹森主教が招かれ、北海道教区について話をされました。これらの事を踏まえながら更に今回、合同教役者会が開かれた背景には、両教区の宣教協働と合併を視野においた教区再編について率直に語り合う事が目的としてありました。

東北教区からは八名、北海

道教区からは一三名の聖職が集ったプログラムの最初には「おらほ自慢」というセッションが持たれました。聖職一人ひとりが、遣わされている教会「おらほ」について、自慢できる事を取り上げながら紹介しあうというのです。互いの教区のホームページで教会の画像を見ながら説明を聴き、それぞれに个性的な教会の歴史と姿と特徴、共通する現実や困難、両教区の違いはもとより東北・北海道の風土と文化と歴史の違いの豊かさを驚き合い、確認しあう時間となりました。

二日目は、函館聖ヨハネ教会礼拝堂での聖餐式をもって始められました。笹森主教が司式、長谷川主教が説教を奉仕され、両教区の教役者たちが、一つの主の食卓を囲み祈りを捧げました。

続くセッションでは、両教区の教区会で共同提案される予定の二つの議案について話

し合いの時間が持たれました。特に、宣教協働・教区再編に向けてのミツシオン・ステートメントについて、熱心な意見が交わされ、ミツシオン・ステートメントを、両教区の教役者の一致点として確認することができました。

一泊二日の限られた日程でのプログラムでしたが、共に顔を合わせ、語り合い、食卓を囲んだ時間は、二つの教区の教役者の距離を縮め、一体感を生み出す恵み豊かなものとなりました。

続く一〇月一九日～二〇日の日程で、北海道教区の現任教役者会が開かれました。ここでは、教区の諸課題、特に教役者不足の中での協働について話し合うと共に、司牧する教会の現状や課題について率直な分かち合いの時間が持たれました。広い教区で働く教役者同士が、互いの重荷を知り合い励まし合う時間は、とても貴重なものでした。

更に教役者会が恵み深いものとなった一つのは、療養中の藤井八郎司祭が、全期

間にわたってプログラムに参加された事でした。そして、教役者会の解散を前にして、聖職たちは藤井司祭を囲んで聖堂に集まり、笹森主教の司式で病人の按手、塗油の式が行われ、万感の思いで函館をあとにしました。

司祭ダビデ 藤井八郎師
ご逝去

一〇月二七日金曜日、敬愛する司祭ダビデ藤井八郎師が、函館にて逝去されました。八二歳八ヵ月。最期まで、司祭職を全うされたご生涯でした。

一〇月三〇日午後六時より、ノア上平更司祭の司式・説教による通夜の祈り、三一日午前一〇時より、マリア・グレイス笹森田鶴主教の司式・説教による葬送式が、両日とも函館聖ヨハネ教会にて執り行われました。

通夜式には約一四〇名が参列し、葬送式には約一〇〇名が集まり、藤井司祭をお送りしました。

あまりに突然のことで、皆一様に動揺し、悲しみに暮れました。北海道教区の多くの聖職が二日間のご葬儀に、それぞれ藤井司祭への感謝を携えてご奉仕いたしました。

晴天の中、藤井司祭のご遺体を乗せたバスは、参列者の拍手に送られ旅立って行きました。

(なお次号に追悼文を記載致します。)



第三回 北海道教区

クララ 吉谷かおる

夏から秋へと季節が進む中「チーム北国」のミーティングも回を重ね、七月〜一〇月までの間には「宣教協働」二広報「組織」「財政」の四つのセクションに参加する拡大メンバーが決まり、セクション・ミーティング（オンライン）が行われました。また、宣教協働の目的と方向性を共有するための「ミッション・ステートメント」の作成に向けて検討を続け、東北教区と北海道教区の合同教役者会（一〇月一八日〜二〇日）で、フィードバックを受けました。

一二月の定期教区会には、「チーム北国」のタスクの追加、名称変更、メンバー拡大、

期間延長についての議案と、両教区の宣教協働・教区再編に向けてのミッション・ステートメント採択についての議案の二つを提出します。また会期中両教区の会場を三〇分間オンラインで繋ぎ、交流の時間を持つ予定です。

東日本宣教協働区協働委員会（四教区）では「チーム北国」の活動・協議内容報告とミッション・ステートメント採択議案を資料として提示しました。一二月の宣教協議会三日目の「宣教協働区アワー」では、全体での発表と質疑応答の後、東北教区と北海道教区の参加者は、小グループでの昼食と自由行動で親睦を深めます。九月にオンラインで交流の時を持った女性参加メンバーたちは、実際の出会いを楽しみにしています。

夏以降、教役者会（東北）、拡大展望会議（東北）、教区婦人会総会（北海道）などでの出会いの機会もありました。教区報で互いに自教区の教会を紹介する連載も始まり、これからますます広く深く、知り合うことができそうです。

仙台基督教会



仙台市の中心部に位置し、定禅寺通と晩翠通りの交差点角に建つ教会です。信徒数は約二百名、二〇一四年に現在の聖堂が建築されました。主な活動としては日曜学校・婦人会・聖歌隊があり、聖書勉強会は月二回開かれています。また、コロナ禍を機に毎月第一週目の聖餐式、イースター礼拝、クリスマス礼拝のライブ配信を行うようになりました。演奏会会場、合唱団の練習会場としても地域の方々に利用されています。ステンドグラスには定禅寺通のケヤキが映り、季節の移ろいが感じられる教会です。



宣教一五〇年実行委員会だより

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。今も現在の進捗状況をいくつかお知らせいたします。

まず「福音とわたし」の刊行についてです。全五分冊で発行予定です。二〇二四年三月（四月に第一号を発行し、その後順次発行していきます。現在は第一号の校正作業が行われています。二〇二四年一二月号までの原稿を収録予定なので最終号は二〇二四年一二月となることをご了承ください。なお、信徒の各ご家庭に各分冊を一冊ずつ配布する予定です。

続いて、ロゴマークが完成したので、一五〇年記念グッズの作成・販売を開始しています。まず缶バッジを一〇〇円で、教区事務所において販売しています。ガチャガチャ形式ですの

お気に入りのものを探してみてください。また近いうちに、ボールペンとエコバッグが完成します。そのほかにもいくつかのグッズを制作する予定です。もしかしてLINEスタンプもできるかも。

先月お伝えした黙想会ですが、最初の日程が確定しました。第一回は二〇二四年二月二三日（金）に小樽聖公会で行います。時間は一〇時から一三時、昼食をはさんでの黙想会となります。黙想指導は笹森主教です。第二回は四月二九日（月）に釧路聖パウロ教会もしくは厚岸聖オーガスチン教会伝道所で行います。時間は同じです。

それから平取の二風谷アイヌ文化博物館の協力で、二〇二一年一〇月に行われた「英国聖公会宣教師ジョン・バチラーの足あとと伝道活動とアイヌ文化研究」のパネル展を札幌キリスト教会を会場に行います。ちょうど記念礼拝の時期にしたいと思っております。ぜひ見てください。さて、いろいろありますが、また来月お会いしましょう。





▽岩見沢聖十字教会

一〇月、雪虫が舞う時季となりました。下旬、函館の藤井八郎司祭の計報の知らせがありました。司祭は一九七八年以降、岩見沢の教会と幼稚園の牧師と園長を務められ、礎を築かれました。第五主日にお祈りをお捧げしました。

実りの秋。教会と幼稚園では収穫感謝が行われました。園児の祖父からサツマイモを頂く。遊び時間、園児は焼き芋を楽しみにしています。

世界では悲しい事が起きています。教会ではウクライナ、イスラエル・パレスチナの平和と安定の為に祈っています。

▽釧路聖パウロ教会

一〇月、雪虫が舞う時季となりました。下旬、函館の藤井八郎司祭の計報の知らせがありました。司祭は一九七八年以降、岩見沢の教会と幼稚園の牧師と園長を務められ、礎を築かれました。第五主日にお祈りをお捧げしました。

▽帯広聖公会

一〇月に入り朝夕の冷え込みが厳しくなりました。教会のストーブにも火が入られ、間もなく来る冬の訪れを感じさせます。

相談の結果、一二月一九日にクリスマス礼拝を行うこととなりました。最北端の小さな教会の礼拝が祝福に満たされますように。

職を全うされ満足されたような笑顔。信徒一同涙、そして言い表せない感謝。

▽厚岸聖オーガスチン教会 (伝道所)

一〇月、日本列島に居座っていた猛烈な残暑もピークを越しました。釧路は今年も真夏日が一日もなかったそう

一五日、収穫・勤労感謝礼拝が捧げられ、沢山の野菜や果物、パンやお菓子など様々なもので飾られました。すべての物を満たしてくださいと神様に感謝。今年に必要な方へお弁当を無償で提供している「あつたらいいね食堂」さんに捧げものを使っていたいただきました。

近年の温暖化のため、九月のバザーを一日に変更、食堂も再開して実施。(藤井)八つちゃん焼きそば完売。今金インマヌエル教会、YWCA、近所のピロシキ店「まるたま」の出店協力もあり、楽しいひととき。教育大生、ラ・サール生の若い応援にも感謝。

一日、越山司祭による聖餐式。二二日、収穫感謝礼拝が行われましたが、諸事情によりみ言葉の礼拝で愛餐会は無しという形になりました。

第一週の日。聖餐式はお約束の二階の礼拝堂で執り行われました。ひと月ぶりの礼拝堂での聖餐式とあって、信徒たちの顔つきも何だか懐かしそうに見受けられました。翌第二週の八日には、関東地方に移住された及川正二・由美子夫妻の懐かしい顔が。一年半ぶりの帰釧で、皆さん旧交を温めました。礼拝後は紫雲台墓地にて津田フユ子さんの納骨式が行われ、津田家・教会を含めて二〇名余の方々が参加。また一五日にはオリーブ会が開催され、近況報告とお茶会に一五名程の信徒が参加。二九日の礼拝後には、この春逝去された遠藤由美子姉の納骨式が北斗霊園で行われました。釧路は冬間近、です。

以前から塗装が剥げていた教会前の鐘楼に大村篤志さん、山本禎之さんがペンキを塗ってくださいました。本当に感謝です。

一三日保健所立入り検査。無事飲食店業と菓子製造業の許可更新。また張切つて美味しいもの作れます。一八、一九日東北・北海道合同教役者会開催。藤井司祭全期間出席。

世界各地の紛争や内乱、抗争が早く終結するために日々お祈りいたします。

二九日墓地礼拝が志賀信徒奉事者司式により行われる。二六日高齢者宅訪問をされた藤井司祭は二七日逝去。三〇、三二日ヨハネ教会で葬儀。シャロームの歌を全員で歌って出棺。二九日主日礼拝の説教原稿見つかり、当日み言葉の礼拝で代読。最後のメッセージを頂く。最後まで司祭

一〇月二六日、いつものように三名で聖餐式をお捧げしました。礼拝後のいなり寿司ランチもいつも通り。

一〇月二二日に収穫感謝礼拝を捧げました。式後に婦人会がカボチャ団子ぜんざいをふるまいました。

月の下旬に内海司祭と鏡子夫人は「主教と行く小笠原への旅」へ出かけられました。先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

▽稚内聖公会 (伝道所)

一〇月二六日、いつものように三名で聖餐式をお捧げしました。礼拝後のいなり寿司ランチもいつも通り。

これからの季節はいつ氷点下になってもおかしくないの

で、帰りには念のため水道の栓を閉じ、不凍液を投入しました。

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

これからの季節はいつ氷点下になってもおかしくないの

で、帰りには念のため水道の栓を閉じ、不凍液を投入しました。

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

先月号でマンロー博士展のお知らせをしましたが、博士

の葬儀は一九四二年四月に平取聖公会で前川眞二郎主教の

の生活発表会に向けて準備が整えられますように。

式で行われたことが解りました。一九九一年に刊行された『前川眞二郎歌集』の中に

▽新札幌聖ニコラス教会
教会床のカーペットを業者

一九四一―四四年の教区巡回の旅の中で詠まれた歌が日付と注記付きで載っています。

に依頼しクリーニングするこ

戦時中も年一回は各教会を巡回しておられた大切な記録です。後半は茨城県笠間からの旅でした。

とになりました。その準備として一日の主日礼拝の後、礼拝堂の椅子等を移動しました。数人がかりで一時間も掛からず終わり。何もなくなりすつきりとした礼拝堂に立つと、いつもと違う新鮮な気持ちを感じます。一五日収穫感謝の祈り。信徒の家の庭で取れた野菜や果物を持ち寄りしました。二二日礼拝後に墓地礼拝を行う。季節柄少し肌寒い中、円山墓地に集まり祈りと聖歌のひと時。

▽札幌聖ミカエル教会
今月は前半後半に二組の聖婚式が行われ、教会も喜びの奉仕が続く月となりました。

▽有珠聖公会
一〇月二二日、収穫・勤労感謝礼拝。チャンセルは、有珠特産の野菜や果物で彩られました。折しも、アハリ・アラブ聖公会病院の破壊で多くの人々が犠牲となった事を覚え、説教冒頭、首座主教名で出された声明が朗読され、勤労と収穫の賜物が、世界中のすべての人々と分かち合える平和な世界の実現を祈りまし

た。礼拝後の茶話会では、茅野千草さんお手製のスイートポテトを皆で頂きました。有珠聖公会は、藤井司祭様に、長期にわたり、管理・牧会いただきました。感謝の内に霊の平安をお祈致します。

▽留萌キリスト教会
教会建物の周りでこの春以降急に地盤沈下が起きて、本来土砂の下にあるべき部分が露出してしまいました。主教巡回の際に沼原さんからアドバイスを受け、当面は自力で少しずつ砂利を運んで対応することにしました。そこへ小林要さんがそと奉仕に尽力してください、安心出来る所までにして頂き感激しました。

よく考えてみると、この教会の全員が同じように精一杯の奉仕を尽くしている事に思い至り、心の深いところから本当にありがたい事だと涙が出る思いです。皆様に感謝。

▽留萌キリスト教会
教会建物の周りでこの春以降急に地盤沈下が起きて、本来土砂の下にあるべき部分が露出してしまいました。主教巡回の際に沼原さんからアドバイスを受け、当面は自力で少しずつ砂利を運んで対応することにしました。そこへ小林要さんがそと奉仕に尽力してください、安心出来る所までにして頂き感激しました。

一〇日、野田さん宅で佐藤家の逝去者記念の式が執り行われました。一四日の会計担当者会議には和田弓さんがオンライン参加しました。司祭は函館での東北教区との合同教役者会に参加、学びと祈りと親睦の豊かな時を過ごしました。二五日からの「笹森主教と行く小笠原聖ジョージ教会」に和田さんが参加、お土産話に花が咲きそうです。

▽網走聖ヘテロ教会
ストープのスイッチを入れるようになりました。あんなに暑かったのに不思議な気さえ致します。

一〇日、野田さん宅で佐藤家の逝去者記念の式が執り行われました。一四日の会計担当者会議には和田弓さんがオンライン参加しました。司祭は函館での東北教区との合同教役者会に参加、学びと祈りと親睦の豊かな時を過ごしました。二五日からの「笹森主教と行く小笠原聖ジョージ教会」に和田さんが参加、お土産話に花が咲きそうです。

▽網走聖ヘテロ教会
ストープのスイッチを入れるようになりました。あんなに暑かったのに不思議な気さえ致します。

雪虫が踊る網走です。

▽室蘭聖マタイ教会
人生最後の清らかさのように紅葉の美しいひと時。長年室蘭聖マタイを支えてくださいました白藤啓子さんが石狩へご転居。厚い感謝とご健康をお祈り致します。一二日、財政再検討の集まり。四日、ヨブに聞く会。天動説が話題となり益々深くなります。八日、二九日、松井司祭による礼拝。その後テモテへの手紙の輪読と学びに、パウロの御心の深さに触れました。その都度聖書の資料等のご準備の松井司祭に感謝。二二日主教様ご来会、収穫感謝礼拝。その後田中孝子さんの鮭汁を頂き交流。神様の被造物と併せ進歩の止まないゲノム編集に、疑問と危機を覚える毎日です。

雪虫が踊る北見、目の中にも入り、車のフロントにもたくさんくっついていきます。

▽北見聖ヤコブ教会
雪虫踊る北見、目の中にも入り、車のフロントにもたくさんくっついていきます。

一〇月七日の常紋トンネル工事殉難者追悼式は天候大荒れのため原則中止、でも二〇名の方々が集われたため簡略

一〇月七日の常紋トンネル工事殉難者追悼式は天候大荒れのため原則中止、でも二〇名の方々が集われたため簡略

化した形で執り行いました。八日は六名での納骨式がありました。葡萄を新たに収穫しお隣りさんへお持ちいたしました。「大好きなんです」と喜ばれ感謝でした。一四日は中田武夫さんの五〇日の逝去者記念の式が市内のホテルで執り行われ、故人を偲びました。水落としても間もなくですね。

▽旭川聖マルコ教会

第一週の日曜日は安らかに眠りに就いた先人たちに感謝と祝福をささげ、逝去者記念礼拝を行いました。

第三週はマルコバザーを規模を縮小して行うことができました。しばらくぶりの開催で準備も大変でしたが、主の御守りのなか無事に終えることができました。感謝です！

今年の夏は高温が続いた影響により作物によっては出来の良し悪しがありました。それでも今年の作柄に感謝し第四週は収穫感謝礼拝を捧げました。

第五週は二七日に逝去された藤井司祭を覚えて、魂の上主の平安があるように祈りました。

▽新冠聖フランシス教会

一〇月八日札幌より故小貫雅夫司祭のご家族がお出くださり、雅夫司祭の遺影を祭壇に納め共に礼拝を守ることができ、感謝の主日でした。

一〇月一四日(土)「教区会計担当者会議」に出席された小竹国昭委員からの報告がありました。また、内海司祭ご夫妻参加の「笹森主教と行く小笠原の旅」の無事を信徒一同お祈り致しました。

一〇月も末日になると教会の回りの木々も一層紅葉が進み寒い季節をむかえます。

体調を崩しておられる方々おひとりお一人の上主のかけりみと祝福がありますように！

▽聖マーガレット教会

一日は、収穫感謝礼拝を笹森主教様の司式で行う。捧げ物の売上金は、YMCAに献金する事に決定。礼拝後、主教の還暦祝をささやかに行う。八日は、阿部恵子司祭の司式説教。毎月第二主日に来

られます。感謝です。また、駐車場にあったプレハブが撤去され見晴らしが良くなりました。

した。第三、第四主日は、三浦執事のみ言葉の礼拝と陪餐。第五主日は、広谷和文司祭をお迎えの予定でしたが、栄子さんの体調が悪くなり、取り止めとなりました。一日も早くお元気になりますように！

▽札幌キリスト教会

一〇月一日、収穫感謝礼拝、主のお恵みを分かち合う。今金のじゃがいもに舌鼓しつつ感謝を込め購買。七日、中西智之さん、クララ鈴木琴さんの聖婚式は主のみ守りのうちに行われ、わたしたちも応援。

一五日、四年ぶりの婦人会例会では、教区発行の「葬儀への備え」と「信仰のデザインノート」について学ぶ。二二日、秋の教会内大掃除。

二九日の司式と説教は横山明光先生にして頂き感謝します。クリスマスページェントの衣装修理をしながら来たる御降誕を待ち望みます。

▽深川聖三一教会

一〇月一五日婦人会、ドイツ前首相メルケル師著「わたしの信仰」を輪読。秋の行事の相談。一七日、保育園職

員会議、クリスマス行事の相談、園内研究は紺野保育士によるノロウイルスについての対応確認。あれもこれもの対応に忙殺されご苦勞様です。

一八日、光の子の子ども礼拝ではチャブレンから、聖ルカ日にちなみ、ルカ福音書の「親切なサマリア人」が語られる。二九日、下澤管理司祭は主日礼拝に来訪、越山健蔵司祭も来会、豊かな昼食を共にす。

一信徒が当日の司祭の説教に好意あふれる感想を述べておられ、今どき珍しい光景！

▽苫小牧聖ルカ教会

苫小牧も一〇月なのに暖かい日が続いています。小さな庭ではありますが、有志により庭の冬支度も進められています。

一五日は笹森主教の巡錫日でした。聖餐式が終わり、礼拝堂で主教様との懇談の中で、主教様が誕生日を迎えたことが解り、参列者のみんながHappyバースデーを歌ってお祝いしました。その後集會室で簡単なお茶会をしました。

二九日の収穫・勤勞感謝礼拝後、捧げものは苫小牧市内

の「子ども食堂」に捧げることになっています。

藤井司祭の訃報を聞き悲しみでいっぱいです。藤井司祭は一九八七年から一一年間苫小牧聖ルカ教会でご奉仕され、幼稚園の為、今は解散したMTSの為、その想い出は尽きることはありません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

▽今金インマヌエル教会

今金インマヌエル教会信徒にとつて二〇二三年一〇月は、神様の御心を強く感じる一ヶ月でした。一〇月八日、

藤井司祭による最後となつてしまった礼拝では、掠れた声を振り絞りながらもユーモアと笑顔の絶えない礼拝となりました。逝去前日まで信念を貫かれた藤井司祭より賜った

沢山の、愛と慈しみと志は永遠に私達の心の中に生き続ける事でしょう。そして、共に支えてくださった主教様を始め司祭の皆様にも心より感謝申し上げます。

神の御手に在りて アーメン